

特別支援教育だより

第3号



令和5年7月 3日

長崎市立深堀小学校

特別支援教育部

教育週間最終日の授業参観では、たくさんのご参観ありがとうございました。保護者の方々の前で授業に集中して取り組む子ども達の姿が印象的でした。一生懸命に先生の話の聞いたり、ワークシートに自分の考えを書いたりする子どもたちの様子をたくさん見ていただいたのではないのでしょうか。大好きな家族に見守られているという安心感があったのでしょうか。ありがとうございます。

さて、前々号で「特別支援教育とは何か」と簡単に述べましたが、子どもたちにも「特別支援教育」について知ってほしいと思い、教育週間中にそれぞれの学級で以下のように話をしました。

子ども達に、右の3枚の絵を上から順に提示しながら、「こんなお友達に、あなたができることは何ですか？」と尋ねました。



上2枚の絵には、子どもたちはすぐに、「車いすを押してあげる。」「できないことを手伝ってあげる。」「大丈夫？と言う。」「保健室へ連れて行ってあげる。」と、次々に答えました。



3枚目の絵では、始めは答えに詰まったものの、しばらく考えて、「おはようと言う。」「一緒に遊ぼうと言う。」と。優しい子どもたちですね。1、2枚目のように困っていることが分かったら、すぐに助けてあげようとするし、何も困っていないと思ったら、あいさつをしたり、仲良くなるための方法を考えたりしたのですね。



でも、3枚目の子は、本当に何も困っていないのでしょうか？

「算数が苦手で、計算の仕方が分からない。」

「並び順が分からなくて、列に入れない。」

などで、困っているかもしれません。

「一緒に勉強したり、遊んだりすると、どんな子がどんなことで困っているかが分かるよ。」と伝えると、「これから、困った人がいたら助けます。」と素晴らしい言葉が返ってきました。

その後、いろんな子の困り感の中には、友達同士では助けてあげられないこともあるという話をしました。そんな時は、先生たちが助けますと。

まず、困り感を無くすための道具（光や音に過敏な人のためのサングラスやヘッドフォンなど）を紹介しました。

次に、たくさんの人の中では先生の話の聞くことや、自分の考えを話すことが苦手な子のために、少ない人数で学習できる教室を用意しているという話をしました。

「困っている子がいたら、先生たちも助けます。みんなが困っている人を助けると、みんなが安心して生活し、楽しい学級・学校になりますね。」とまとめることができました。

保護者の方々と教職員が協力して子どもたちと向き合い、困り感を少しでも無くして、深堀小の子どもたちみんなが安心して楽しい学校生活が送れるよう支援していきたく思います。

子どもたちの困り感に気づかれたら、いつでもご連絡、ご相談ください。